

## 世界フロアボール選手権大会出場報告

### Reports at FLOORBALL World Championships

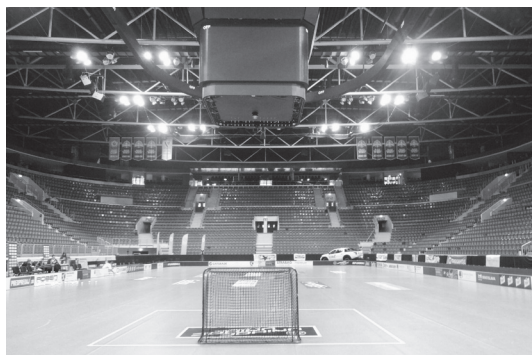
山中 実子

Miko YAMANAKA

#### 1. はじめに

フロアボール (Floorball) とは、アイスホッケーから発祥した室内ホッケー競技でありスティックを使ってプラスチック製のボールを相手チームのゴールに入れて得点を競う団体競技である。スウェーデン語ではInnebandy、ドイツ語ではUnihockeyという名称である。フロアボールは主にヨーロッパで盛んなスポーツであり、スウェーデン、フィンランド、スイス、チェコなどでは、プロリーグも存在する。また、シンガポール、日本、オーストラリア、ニュージーランド、韓国、アメリカなどでも行われている。現在、国際フロアボール連盟 (International Floorball Federation) を中心にオリンピックの正式種目としての認可を目標として、世界的に競技の拡大、発展をしている。日本は、1983年から競技を始め、1995年にIFFに加盟し、世界で2番目の加盟国となった。1998年に第1回世界選手権大会が開催され、日本は第1回大会から出場している。現在、日本フロアボール連盟 (Japan Floorball Federation) には85のクラブが加盟している。試合は1チーム6人で行われ、通常1ピリオド20分間で第3ピリオドまで行う。コートは40m×20mの広さを持ち、周囲を高さ50cmのフェンスで囲みコーナーフェ

ンスには丸みを持たせている。ルールはアイスホッケーに似ているがフロアボールは防具を付けずに (ゴールキーパーは着用する) サッカーのようなユニフォームで競技をするため、アイスホッケーのように相手に強く当たってはならない。アイスホッケーのように選手の交代は自由にでき1チーム最大20人で構成される。ゴールキーパー以外のフィールド選手は、競技時間において1回



の出場に約1分～1分30秒で交代する。1回の出場で選手は激しい攻防を常に続けていくため運動量は非常に多いといえる。運動量はゲームの勝敗に関係してくるが、チームの戦術や技術などによって差が生じる。ゴールキーパーはシュートを止めることが基本となり、縦4m×横5mゴールエリア内に体の一部（手や足等）が残っていれば手を使うことやスライディングでボールを止めることが可能である。ゴールキーパーはスティックを持つてはいけないポジションのためスローを行うことができるが、投げたボールはセンターラインよりも自陣内でフェンスや床などに当てなければならない。日本は、国際試合に初期の頃から出場している。

## 2. 世界フロアボール選手権大会／戦績

世界フロアボール選手権大会とは、国際フロアボール連盟（IFF）が主催する大会であり、私はスロバキアで行われた“2017女子世界フロアボール選手権大会”に出場した。（表1）それぞれの地域から世界大会の予選大会を勝ち抜いた16カ国が出場している。日本はアジア・オセアニア予選大会を優勝して世界大会へのチケットを獲得した。アジア・オセアニア予選大会からは日本・シ

ンガポール・オーストラリア・タイが勝ち抜き世界大会に出場した。

世界フロアボール選手権大会の予選は各ブロックの総当たりで1ブロック4カ国である。またAとBの2つのデヴィジョン（division）がある。（表2）

今回の日本代表の目標は予選を突破することであった。最低限2勝し、グループ2位以上になることが予選突破の条件であるが、デンマークとアメリカに敗戦してしまい、目標を達成することができなかった。そして、グループ3位になりPlay-Offをむかえた。また、2つのデヴィジョンに分かれているため日本はAデヴィジョンの国



表1 歴代WFCQ結果等

	開催年	開催国	開催地	優勝国	日本順位	出場国数
第1回	1997	フィンランド	マリハムン	スウェーデン	10位	10カ国
第2回	1999	スウェーデン	ボルレンゲ	フィンランド	11位	12カ国
第3回	2001	ラトビア	リガ	フィンランド	13位	16カ国
第4回	2003	スイス	ベルン	スウェーデン	9位	18カ国
第5回	2005	シンガポール	シンガポール	スイス	8位	17カ国
第6回	2007	デンマーク	フレゼリクスハウン	スウェーデン	16位	20カ国
第7回	2009	スウェーデン	ヴェステロース	スウェーデン	17位	20カ国
第8回	2011	スイス	ザンクトガレン	スウェーデン	16位	16カ国
第9回	2013	チェコ	ブルノ／オストラバ	スウェーデン	15位	16カ国
第10回	2015	フィンランド	タンペレ	スウェーデン	15位	16カ国
第11回	2017	スロバキア	ブラチスラバ	スウェーデン	14位	16カ国

表2 AデヴィジョンとBデヴィジョン

A divion				
A	フィンランド	チェコ	ノルウェー	ラトビア
B	スウェーデン	スイス	ポーランド	ドイツ
B divion				
C	スロバキア	エストニア	シンガポール	オーストラリア
D	デンマーク	アメリカ	日本	タイ

と戦えなくなり、13-16位の決定戦となった。Play-Off初戦はオーストラリアと戦い5-4で勝利を収め、13位決定戦に進んだ。1度勝利したタイに敗戦し、今大会は14位で終えた。また、今大会のベスト4は前大会と同じスウェーデン・フィンランド・スイス・チェコの順であった。決勝戦は延長戦にもつれこすも決まらず、PS対決（サッカーでいうPK）でスウェーデンが6連覇を果たした。日本は前大会よりも順位を1つあげることができた。しかし、同じアジアであるタイは国でフロアボールに力を入れていることなどから、この数年で力をつけてきている。アジアは世界のトップの国よりもまだまだ劣っているところはたくさんあるが、伸びしろを感じた大会であった。

### 3. 状 況

日本のフロアボールは厳しい状況にある。私の定期的に行える練習は週2～3日ほどしかない。そのほかは、ほかのチームに参加することや、不定期に取ることができる体育館で自主練をするというような形で日々練習を重ねている。競技人口が少なく、マイナースポーツであるため、フェンスを置いた正式の広さでのリンクの練習はほとんどなく、クラブのリンクはもちろんない。クラブチームになると社会人や学生がほとんどで、練習に人数が集まらないというような、充実した練習は数少ない。また、コーチは経験がある現役選手や、現役から離れた選手などに指導してもらっているため現役選手はさらに練習が削られている現



状である。現に、国士舘大学でもOB・OGにコーチを依頼している。

そして、日本代表として国際大会に出場しているが、遠征費は選手の実費である。また、代表の合同練習は週に1回程度のため世界との差を縮めるには時間がかかると思われる。しかし、各地でミニフロアボール大会や講習会など普及活動が定期的に行われている。国士舘大学フロアボールチームも、小学校へ出向きフロアボール体験会を指導者として行った。このように厳しい現状の中で、着実に日本のフロアボールは成長しているといえる。

#### 4. 国士館の代表選手

国士館フロアボールチームは、日本フロアボール学生選手権大会（インカレ）が2011年から開催されるようになり、男子チームは第2回から5連覇、女子チームは第5回から3連覇という好成績を残している。

その中でも選考会を受け、国士館大学の在学、卒業生の中からも代表に選ばれた選手がいる。（表3）

差や違いを実際に肌で感じ、体験した。

今大会では、現段階の技術や知識では世界には通用しないと改めて実感した。試合に出た時間も内容もまだまだであった。しかし、チームとして自分の役割に努めることや、チーム一丸となって得点を取ること、守ること、そして勝利を得ることの難しさ重要さを知ることができた。今後はこの経験を活かし、競技生活は日々精進し、普及活動などこれからの日本フロアボールに多面から貢献していきたいと思った。

#### 5. おわりに

私は、世界学生選手権・WFCアジアオセアニア予選大会・世界選手権と3つの国際大会に出場した。全てが初めての経験で、日本と世界各国の

#### 参考資料

国際フロアボール連盟ホームページ  
<http://www.floorball.org/default.asp>  
 日本フロアボール連盟ホームページ  
<http://www.floorball.jp>

表3 国士館大学生 日本代表選手

名前	学部	学科	卒業年度。学年	主な出場大会
田島 達朗	文	考古日本史学専攻	平成20年度卒業	2010
倉田 翔平	体育	体育	平成22年度卒業	2014
樋口 賢太	体育	体育（※）	平成25年度卒業	2014
高橋 克典	体育	こどもスポーツ教育	平成25年度卒業	2009（U-19）
柴 由紀	体育	こどもスポーツ教育	平成25年度卒業	2017
加藤 陽	体育	こどもスポーツ教育	平成25年度卒業	2009（U-19）
岩崎 安奈	体育	こどもスポーツ教育	平成27年度卒業	2017
倉場 俊圭	経営	経営学科	平成27年度卒業	2014
渡部 達也	経営	経営学科	平成27年度卒業	2014
後藤 由衣	体育	体育学科	平成28年度卒業	2017
島田 智之	体育	スポーツ医科	平成28年度卒業	2014
柴 尚希	政経	政治	平成28年度卒業	2014
森永 紫帆	法	現代ビジネス法	4年生	2017
山中 実子	体育	こどもスポーツ教育	4年生	2017
中井麻友美	体育	こどもスポーツ教育	4年生	2015
後藤 礼衣	体育	体育	2年生	2017

（※）国士館大学 大学院 平成27年度卒業  
 スポーツシステム研究科スポーツシステム専攻